

# 石川県七尾美術館だより

平成13年4月10日発行  
編集・発行 石川県七尾美術館

## 第25号(春号)



ISHIKAWA  
NANAO  
ART MUSEUM

「ピカソ・陶芸の世界」より  
Large bird, Picasso (大きな鳥)  
1953.3.23  
©Succession Picasso, Paris&BCF, Tokyo, 2001



# 展覧会紹介

平成十三年四月二十日(金)～  
七月一日(日)  
休館日については裏表紙をご覧ください

「楽しい色と形に出会う」

ピカソ・陶芸の世界」

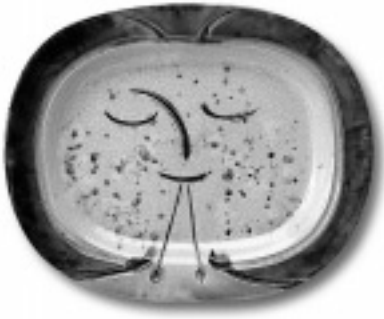
四月二十日(金)～六月三日(日)

「会期中無休」

## 第一・第二・第三展示室

二十世紀を代表する巨匠であるパブロ・ルイス・ピカソ(一八八〇～一九七三)は、世界中で最も有名な画家のひとりと言っても過言ではないでしょう。しかし、彼が絵画だけでなく陶芸や彫刻、そして版画などのあらゆるジャンルで活躍していたことはあまり知られていません。

第二次世界大戦が終結した翌年の一九四六年夏、南フランスのヴァロリスで開かれていた陶器市を訪れたピカソは、「マドウーラ」という工房で陶器を制作したのをきっかけに、この絵画的要素と彫刻的要素が入り交じった「陶芸」というジャンルに魅了され、以来生涯に三千点を超える作品を生み出したのです。



『Diaulos player (笛吹奏者)』1947



『貧しき食事』1904 (1913) 高崎市美術館蔵

本展では、陶土を使った非常に珍しいオリジナル彫刻作品『黒と白のみみずく』を始め、ピカソが制作した母型から生み出した限定番号入りのオリジナル作品『アンブラント・オリジナル・ド・ピカソ』と、ピカソの了解のもとで、マドウーラ工房の陶工がピカソの原作を基に限られた数だけ制作した『エディシオン・ピカソ』を合わせて約百五十点展示するほか、彼が個展や友人との展覧会のために制作したりトグラフによるオートポスター・二十三点、及びエッチングなどの技法によって制作された版画四十一点を加え、一堂に紹介します。

ピカソの自由奔放で独創的な発想から生み出された、「生命力」と「遊び心」たっぷりの楽しい色と形に出会うことで、「つくる」ことへの興味を深めていただけたら幸いです。



『Laughing-eyed face(笑い眼の顔)』1969.1.9

また、本展をご覧になって創作意欲が呼び覚まされた方々のために、どなたでも随時ご自由に参加いただける紙皿スケッチコーナー「ほくもわたしもピカソだよ!」を開催いたします。このワークショップは第三展示室内にありますので、ピカソの作品を見ながら、自分だけのオリジナルイラストを描くことができます。参加費は無料ですので、ぜひ皆さん挑戦してみてくださいね。

観覧料

大高生	一般	個人	団体
350円	700円	600円	3000円

中学生以下無料・団体は20名以上です。



ワークショップ

紙皿スケッチコーナー

「ほくもわたしもピカソだよ!」

紙皿にオリジナルイラストを描いてみよう! みんなのお皿も展示します。

会期中常時開催  
参加費無料!

# 「第57回現代美術展 七尾展」

六月八日(金)～七月一日(日)

## 第一・第二・第三展示室

「現代美術展」は石川県下で最大規模を誇る公募展です。その歴史も古く、戦後間もない昭和二十年十月、敗戦による混乱の中にも関わらず「美術文化の向上による新日本建設への寄与」を掲げて記念すべき第一回展が行なわれました。以後、毎年継続され今年で五十七回目を迎えます。

七尾展については、昭和二十一年六月の同第二回展が七尾を会場として開かれ、その後平成七年四月の当美術館開館以後は能登地方関連作家作品を中心に、「現代美術展」の地方展という形で毎年開催されています。

当展は県内在住の重要無形文化財保持者(人間国宝)を筆頭とする現代の美術界を牽引する作家作品をはじめ、これから更なる制作活動をしていこうという新進気鋭の作家まで、幅広い層から作品が応募されます。そして千点にもおよびそれらの作品より、入選率五〇パーセントという厳しい審査を経て入選作品が選抜され、展示されるのです。



「第56回現代美術展」(昨年開催)  
美術文化特別賞・最高賞受賞作品  
『ブラックホール』(工芸) 向瀬孝之



「第56回現代美術展」(昨年開催)  
美術文化大賞・委嘱賞受賞作品  
『陽だまりの部屋』(洋画) 西房浩二

これだけの作品を一堂に觀賞できる機会は貴重であり、石川県における現代美術の流れを展覧する絶好の機会といえるでしょう。

七尾展では「現代美術展」入選作品の中から、能登地区(押水町以北)在住者の作品、最高賞・次賞・委嘱賞受賞作品、能登地区在住および出身委嘱作家作品、財団法人石川県美術文化協会役員の作品を選抜、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門で約二〇〇点を展示予定です。



「第56回現代美術展 七尾展」  
展示室風景



「第56回現代美術展 七尾展」 展示室風景

### 観覧料

大高生	一般	個人
350円	500円	
		団体
	300円	400円

中学生以下無料・団体は20名以上です。

### 後援 能登地区各市町村教育委員会(予定)

### 主催 財団法人七尾美術館

財団法人石川県美術文化協会  
北國新聞社・テレビ金沢  
ラジオななお

## アートホール催し案内

### プリランテ・クラシック・コンサート

四月二十二日(日)

開場 午後六時

開演 午後六時三十分

ピアノ・フルート・ヴァイオリン・電子オルガンによるクラシックコンサートです。各楽器の独奏のほか、アンサンブルもします。豊かな音色をどうぞお楽しみください。

入場料 (大人) 千円・(小人) 七百元

主催 プリランテ

後援 北國新聞社・ラジオオナなお能登ピアノレスナー会

七尾パソコン家庭教師SE

連絡先 干場 一葉

☎(〇七六七) 七四 一三五二

### 第三回メモロディーパレット

六月十七日(日)

開場 午後一時十五分

開演 午後一時三十分

石田ゆかりピアノ教室の発表会で、ピアノソロ、ファミリーアンサンブルなどのプログラムで演奏します。スライド映像も用い、絵・お話・音楽と楽しい音の世界をお聴きください。

入場料 無料

主催 石田ゆかり門下生

後援 ミヤコ音楽堂

能登ピアノレスナー会等

連絡先 石田ゆかり

☎(〇七六七) 五三 四六二八

## 第二回七尾美術館友の会

### 鑑賞の旅の案内

#### 参加者大募集!!

昨年十一月に「第一回七尾美術館友の会鑑賞の旅」と題して、会員様と美術館職員とで富山県へ美術鑑賞の旅に行つてきましたが、次回はもうちょっと暖かい季節に！という声が多かったため、二回目となる今回は左記の通りに決定しました。皆様からのお申し込みを心よりお待ちしております。

・日 程 六月十六日(土)

・見学予定地 加賀方面の美術館ほか

・参加費 五、〇〇〇円(友の会会員以外の方は六、〇〇〇円)

・募集定員 先着四十五名

・お申し込み方法 (対象は原則として成人)

・参加ご希望の方は、五月一日(火)以降に参加費を添えて当館受付までお越しください。

## 当館主催の催し

### アートホール

映画上映会 「入場無料」

毎月第二・四土曜日 午後二時

・四月二十八日、五月十二日・二十六日

「楽しい造形活動」材料と遊ぶ」(二十分)

・六月九日・二十三日

「表現のいのちを感じる心を深める」

(二十分)

## ワークショップ情報

七尾美術館ではこれまで

「イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」開催時に、子どもワークショップを開催して

きましたが、今年度からは

さらにワークショップに力を入れ、「みる」

だけでなく、「つくる」楽しみも体験できる

！そんな親しみやすい美術館を目指し、参加型の展覧会を企画しています。

まずは今年度最初の試みとして、「ピカソ・陶芸の世界」、「夏の優品展」開催時に

左記の通りワークショップを開催します。

お楽しみに！

四月二十日(金)～六月三日(日)

「ピカソ・陶芸の世界」開催期間中毎日

紙皿スケッチコーナー

「ぼくもわたしもピカソだよ！」

第三展示室にて会期中随時開催

(参加費無料・予約はいりません)

詳しくは二ページをご覧ください。

八月一日(水)～八月十四日(火)

「夏の優品展」開催期間中

木彫講座「子どもアーティスト誕生！」

美術館横「芸術とやすらぎの広場」にて、

工芸家・滝川千春先生と一緒に木彫制作を

体験してみませんか？

・参加費 無料

・対象 小学校高学年～中学生

・定員 三十名(事前にお申し込みください)

お申し込み・お問い合わせは...

石川県七尾美術館

☎(〇七六七) 五三 一五〇〇



## 平成十二年度 新所蔵品紹介

昨年度(平成十二年度)中、新しく当美術館所蔵品になった作品を紹介します。

・油彩画『二人・遙』 佐々波啓子

平成十一年(一九九九)制作

第85回記念光風会展出品

・油彩画『映(はゆ)』 佐々波啓子

平成十二年(二〇〇〇)制作

・油彩画『萌(もゆ)』 佐々波啓子

平成十二年(二〇〇〇)制作

第56回現代美術展金沢市教育委員会賞受賞

以上、佐々波啓子氏より寄贈

・油彩画『イエールの街角』 田辺栄次郎

平成十年(一九九八)制作

第44回一陽会展遺作出品

藤井多鶴子氏より寄贈



「萌(もゆ)」佐々波啓子



「イエールの街角」田辺栄次郎



「もう一つの風景」中村静勇



「ベイビー」斉田正一

・油彩画『居酒屋』 中村静勇

昭和四十六年(一九七一)制作

神奈川県選抜展新作家賞受賞

・油彩画『もう一つの風景』 中村静勇

平成四年(一九九二)制作

第63回第一美術展文部大臣賞受賞

・油彩画『セレナーデ( )』 中村静勇

平成十二年(二〇〇〇)制作

第71回第一美術展出品

・素描『造船場のある風景』 中村静勇

平成五年(一九九三)制作

・素描『モントレイ岩波』 中村静勇

平成六年(一九九四)制作

・素描『モントレイ』 中村静勇

平成六年(一九九四)制作

・素描『ミレーの家』 中村静勇

平成六年(一九九四)制作

・素描『坂下の家』 中村静勇

平成六年(一九九四)制作

以上、中村静勇氏より寄贈

・書『和歌一首(伏見天皇御製)』 高木聖鶴

坂本賢一氏より寄贈

・写真『ベイビー』 斉田正一

平成九年(一九九七)制作

ジャパンアート二〇〇〇展出品

斉田正一氏より寄贈

新所蔵品につきましては、今後「所蔵品展」などで順次紹介していきたいと思えます。なお、具体的な展示期間などに関しましては、美術館までお問い合わせください。



「和歌一首(伏見天皇御製)」高木聖鶴

## 等伯コーナー

### 等伯にまつわる人々(その一)

～等伯の跡を継ぐ者たち～

長谷川等伯率いる「長谷川派」には、実子である久蔵、宗宅、宗也、左近の四人の男子の他、最近提唱されている等秀、等学(等岳)の二人の娘婿や、多くの弟子達が活躍していたとされます。今回はシリーズ第一回目として、等伯の一番身近な存在である久蔵・宗宅・宗也・左近の四人の息子を紹介します。

#### 長谷川久蔵(はせがわ きゅうそう)

永禄十一年～文禄二年(一五六八～九三)

等伯の長男で、母親は先妻の妙浄といわれます。等伯の四人の息子の内、少なくとも久蔵は能登生まれだとされます。等伯は元龜二年(一五七二)に上洛したといわれますが、この時久蔵はまだ幼年で、恐らく母親に抱かれながらの旅路であったと思われる。

上洛後、画業に励む父の背中を見ながら育ち、幼い頃から絵の勉強を重ね、才能にも恵まれていたでしょう。若くして父・等伯に勝る程の実力を身につけ、長谷川派一門中では彼に及ぶ者はいなかったといわれています。

その事は久蔵が描いたとされる作品によく表れています。特に等伯をはじめ、一門が総力を結集して制作した『祥雲寺障壁画』(国宝・現在、智積院所蔵)の現存部分の内、久蔵筆だとされる『桜図』には、等伯筆『楓図』とは異なった、やまと絵的なやさしさと清らかな叙情性に満ちあふれています。

しかしながら、この『祥雲寺障壁画』を完成さ

せた直後の文禄二年(一五九三)六月十五日、久蔵は亡くなります。享年僅か二十六歳だったとされ、将来を囑望されていた久蔵の死は、一門にとって計り知れないほど大きな打撃でした。等伯も大いに嘆き、その悲しみが名作『松林図屏風』を誕生させたともいわれています。

現在、久蔵が描いたといわれている作品は、先述の『桜図』(国宝)の他、『朝比奈草摺曳図絵馬』(重要文化財・清水寺所蔵)、『大原御幸図屏風』(東京国立博物館所蔵)です。

#### 長谷川宗宅(はせがわ そうたく)

～慶長十六年(？)～一六一一)

別名「等後」ともい、等伯の次男といわれます。生年は不明ですが、長男の久蔵と同じく先妻・妙浄の子であると推定されています。

他の等伯の子と同様、その生涯については判然としていませんが、現存する宗宅作品の、等伯に比べて独特の柔らかさを持ち合わせた作風により、とても繊細な性格の画家であったろうと推定されています。



石川県指定有形文化財 『十六羅漢図』(12幅内2幅) 長谷川左近筆 大乘寺蔵

慶長十五年(一六一〇)、等伯が江戸へ下向した際には、宗宅も同行したといわれ、同年に等伯が没した後、宗宅は朝廷より「法橋」の位を授与されています。つまり、宗宅が当時の権力階級より等伯の後継者である旨を認められたという証であり、それは一門を率いるだけの力量が備わっていたであろう事を伺わせます。

ところが、その宗宅も翌年の慶長十六年十月十三日に亡くなってしまいます。長谷川家には久蔵の夭折、前年の等伯の死去に続いての大きな不幸でした。この後の長谷川派勢力の衰退は久蔵、宗宅の早すぎる死が大きな原因であったのは間違いないでしょう。

宗宅の筆といわれる作品については『李白・陶淵明図屏風』(北野天満宮所蔵)、『柳橋図屏風』(群馬県立近代美術館所蔵)、『秋草図屏風』(南禅寺所蔵)などがあります。

#### 長谷川宗也(はせがわ そうや)

天正十八年～寛文七年(一五九〇～一六六七)

別名「新之丞」ともいわれ、等伯の三男で母親は後妻・妙清だと推定されています。

その生涯についてはやはり不明な点が多いのですが、兄の宗宅が亡くなった時、宗也は未だ二十歳代前半の若さであり、この後、実際に長谷川派要人の一人として活躍したのは、現存作品の制作年や、江戸絵画的な画風などから江戸時代前期頃と推定されています。

等伯・久蔵・宗宅亡き後、狩野派が着実に力を付けていく中で、必死に一門を支えていた姿が想像されますが、残念ながら画力についての評判は芳しくなく、「父に及ばない」との厳しい評価であったようです。

しかしながら、宗也作品には独自の繊細さが表れている一方、要所に長谷川派の画家らしい鋭さ

を垣間見せており、そこからは長谷川派の伝統を守り伝えていこうとする意志が感じられ、やはりそこはさすがに等伯の子であったといえます。長谷川宗也は寛文七年（一六六七）八月六日、七十八歳で没したとされます。少なくとも二人の兄よりは長命を保てたといえます。

宗也の筆といわれる作品には『大黒布袋角力図板絵』（八坂神社所蔵）、『虎図板絵』（清水寺所蔵）、『葛に昆虫図屏風』（個人所蔵）などがあります。

### 長谷川左近（はせがわ さこん）

文禄二年（一五九三）？

別名「等重」ともいわれ、等伯の四男で宗也と同じく後妻の妙清の子と推定されています。没年は不明ですが、現存作品銘により少なくとも寛永七年（一六三〇）までは存命であった事が解っています。



『秋草図屏風』（部分）長谷川宗宅筆 南禅寺蔵

左近については「自雪舟六代」を称している点が特記されます。室町時代の大画家・雪舟の画系に連なる者だとして、等伯は「自雪舟五代」を自称していました。左近は更にその跡を継ぐのは自分であると宣言しているのです。

左近が「自雪舟六代」を称した頃（寛永七年）、久蔵や宗宅は既に亡くなっていますが、少なくとももう一人の兄・宗也は存命で活躍中のはずです。左近はどつて兄を飛び越す形で「雪舟六代」を称したのか現時点では不明です。宗也や他の長谷川派要人との間に何らかの問題があったのではないかと指摘もあります。

その作風は他の兄弟達と同様、等伯と比較してとても穏やかであるといわれます。そして長谷川派の特徴を継承しながらも、一方で狩野派や宗達風の影響などが多く見受けられるとされ、時代と共に一門の画風も着実に変化していった事が伺われます。

左近の筆といわれる作品には『牧牛・野馬図屏風』（ポストン美術館所蔵）、『三十六歌仙図板絵』（海津天神社所蔵）、『十六羅漢図』（大乘寺所蔵）などがあります。

当館では本年八月二十五日（土）より九月二十四日（日）まで特別展「長谷川等伯シリーズ」を開催予定です。今回のテーマは「長谷川派の絵師たち」で、本文で紹介しました等伯の息子達をはじめ、「長谷川派」の作品を紹介いたしますので、ぜひご期待ください。

#### 参考文献

- ・「長谷川等伯」土居次義著 講談社 一九七七
- ・「本朝画史」狩野永納編・笠井昌昭他訳注 同朋舎出版 一九八五
- ・「桃山絵画研究」山根有三著 中央公論美術出版 一九九八

## ミュージアムショップから

当館ミュージアムショップでは、展覧会図録や所蔵品のポストカードのほかに、特色あるオリジナルグッズも販売しています。今回は、その中でもコレはおすすめ！というのを紹介します。

まずは、シンプル＆ナチュラルなフォトスタンド。二つのアクリルプレートにポストカードを挟んで台座にセットする、といったスタイルなので縦型にも横型にも使用できます。

木目が美しい台座はカナディアンメープル（楓）からできており、その形は美術館のドーム型屋根のミニチュアといった感じで、優しく温かみのある風合いです。

次は、見た目にもユニークな真鍮色の小物入れ。手頃な大きさで、使い方はいろいろ。灰皿、お香立て、アクセサリー入れなど、アルミダイキャスト製だから、とっても丈夫です。

どちらもお部屋に置いて主張しすぎない存在感。おしゃれな茶×黒の箱入りなので、ちょっとしたプレゼントにいかが？



フォトスタンド 2300円



小物入れ 800円



# 夏の展覧会予定



第1・第2展示室

## 「夏の優品展」

池田コレクションを中心に  
それぞれの四季

7月7日(土)~8月19日(日)

第1展示室では、七尾市名誉市民である故池田文夫氏が収集した美術品「池田コレクション」より、さまざまなジャンルの作品を紹介します。第2展示室では「四季」をテーマに、季節感溢れる近現代作家の作品を中心に展示します。

第1・第2展示室

## 長谷川等伯シリーズ 長谷川派の絵師たち

8月25日(土)~9月24日(月・祝)

長谷川等伯(1539~1610)は能登七尾出身で、桃山時代に京都で活躍した画人です。本年は等伯が率いた「長谷川派」に焦点をあて、後継者である息子や弟子達を中心に一門の作品を紹介します。なお、第3展示室では「秋の所蔵品展」を同時開催予定です。



『竹虎図襖』(部分) 禅林寺蔵

## ＊ほっとひとときティールーム＊



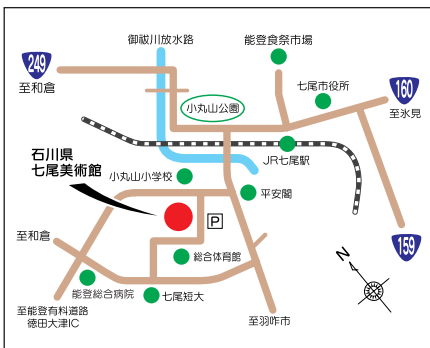
白玉ぜんざい1500円  
(玄米茶、塩昆布付)

いよいよ春到来!とはいっても、時折肌寒い日もあつたりする今日この頃。そんな日は、ほっとするあたたかさ『白玉ぜんざい』はいかが? やさしい甘さで、気持ちも体もなごみます。  
また、コーヒー派の方にもおすすめしたいのが『レモンティー』。おしゃれなティーサーバーで本格的な紅茶の味と香りが楽しめますよ。「一度お試しあれ♥」

美術館ティールームは正面入口横にあります。  
ティールームだけのご利用もできますのでお気軽にどうぞ。



レモンティー350円



### 交通案内

車.....金沢より能登有料道路  
利用約1時間30分

タクシー...JR七尾駅より約5分

徒歩...JR七尾駅より約20分

市内循環バス...JR七尾駅より西回りに  
(まりん号) 乗車約6分

### 休館日のお知らせ

(4月~6月)

4月 2、9~19

5月 無休

6月 4~7、11、18、25

次号・第26号(夏号)は7月7日発行予定です。